日本社会科教育学会

第 62 回全国研究大会（東京大会）

プログラム

期日　2012（平成 24）年 9 月 29 日（土）・30 日（日）　※ 関連行事は 28 日（金）
会場　東京学芸大学（〒184-8501 東京都小金井市貫井北町 4-1-1）
主催　日本社会科教育学会　日本教育大学協会社会科部門
共催　東京学芸大学
後援　東京都教育委員会　小金井市教育委員会　国分寺市教育委員会　小平市教育委員会

日程

第１日目　9 月 29 日（土）

8:40　9:30　12:00　13:00　16:20　16:30　17:15　17:30　19:30

受付	自由研究発表Ⅰ	昼食 評議員会	シンポジウム		総会	懇親会 (大学生協)

第２日目　9 月 30 日（日）

8:30　9:00　12:00　13:00　15:30

受付	自由研究発表Ⅱ	昼食	課題研究

関連行事

授業公開　９月２８日（金）【場所：合同棟（附属小金井小学校西隣１階大教室）】
東京学芸大学附属小金井中学校　　１１：４０~１２：３０
　　学年：第２学年（授業者：田崎義久教諭）
　　内容：東日本大震災を忘れない ―災害廃棄物の受け入れをめぐって―
東京学芸大学附属小金井小学校　　１３：２０~１４：０５
　　学年：第５学年（授業者：根本　徹教諭）
　　内容：わたしたちのくらしと工業生産　―車社会にあるリスク―

研究協議会　　１４：２０~１５：３０
ワークショップ　　１６：００~１７：３０

第１日目　２０１２（平成２４）年9月29日（土）

自由研究発表　Ⅰ　9:30－12:00

自由研究Ⅰ－第1分科会　N201

司会者　宇都宮大学　熊田　禎介
桜美林大学　田中　暁龍

(1) モノから情報を読み取る高校日本史授業の基本的活動
愛知教育大学　田上　哲也

(2) 高校生によるオーラル・ヒストリーの実践
－「聞き書き甲子園」を事例として－
筑波大学　藤井　大亮

(3) 1950年代における考古学と歴史教育
－和島誠一の活動を中心に－
宇都宮大学大学院　横山　唯

(4)　倒叙法による小学校社会科歴史学習
－生活文化を軸とした歴史授業の開発－
愛知教育大学大学院　大野　菜月

(5) 民主主義を問い直す社会科教育
－中学校社会科歴史的分野と公民的分野の連携を通して－
川口市立芝西中学校　内藤　圭太

自由研究Ⅰ－第2分科会　N202

司会者　東京学芸大学　加藤　公明
奈良女子大学附属中等教育学校　北尾　悟

(1) 小学校社会科歴史学習における「人物学習」に対する一考察
－アジア・太平洋戦争の指導を通して－
奥州市立江刺愛宕小学校　遠藤　雄史

(2) 「戦歿者慰霊之碑」調べから始まるアジア・太平洋戦争の学習
牛久市立中根小学校　石上徳千代

(3) 「南京大虐殺事件」の検証
－東京裁判審理を中心に－
北海道北見柏陽高等学校　斉藤　満幸

(4) 歴史を「共感」することの意味とその課題
東洋大学　須賀　忠芳

(5) 討論授業「地主と小作人の言い分、あなたはどちらに賛成か？」
－新潟　木崎争議から中学生がみる大正時代－
新潟市立石山中学校　小林　朗

自由研究Ⅰ－第3分科会　N203

司会者　上越教育大学　茨木　智志
皇學館大学　深草　正博

(1) 歴史教育における博物館活用のあり方に関する考察
－学習指導要領と教科書記述の分析から－
東京学芸大学大学院　樋山　憲彦

(2) 博物館における歴史教育
－米ホロコースト記念博物館の事例をもとに－
筑波大学　柴田　政子

(3) 黒死病と 14 世紀の世界
－世界史Ｂ「空間軸からみる諸地域世界」の単元構想－
共立女子大学　田尻　信壹

(4) 世界遺産を通して「持続可能な開発」を考える
－小笠原諸島を事例として－
広島大学附属中・高等学校　藤原　隆範

(5) 高等学校地理歴史科における指導内容の「精選」に関する一考察
－定時制課程専門学科における実践を踏まえて－
東京都立農業高等学校定時制　大木　匡尚

自由研究Ⅰ－第4分科会　N204

司会者　東洋大学　栗原　久
宮崎大学　吉村功太郎

(1) 市民性教育としての「倫理」の授業開発
－「人物研究学習」を中心に－
広島経済大学　胤森　裕暢

(2) 社会的構想力の育成に向けた基底的価値観形成に関する考察
－人間の安全保障論に着目して－
浜松市立北部中学校　鈴木　正行

(3) 社会科における子どもの議論の評価
－パフォーマンス評価による授業改善の可能性の検討－
筑波大学大学院　中山　南斗

(4) 選挙の争点学習と「現代社会」
－「政策えらび授業」の実践－
埼玉県立浦和第一女子高等学校　華井　裕隆

(5) 対話と討論による公民学習
－「契約」「夫婦別姓」「自衛隊海外派遣」－
関西大学中等部　河原　和之

自由研究Ⅰ－第5分科会　N205

司会者　鳴門教育大学　梅津　正美
群馬大学　宮崎　沙織

(1) アメリカ合衆国におけるグローバル教育の進展とＮＣＳＳの対応
愛媛大学　鴛原　進

(2) 多文化共生社会での小学校社会科授業の開発
－外国人児童と日本人児童がともに学べる授業づくり－
愛知教育大学大学院　井上　智文

(3) つながりで学ぶアフリカの紛争
－コンゴの紛争資源と日本の市民生活－
東京大学大学院　華井　和代

(4) 多文化教育としての小学校政治学習
－アイヌ民族の権利を考える－
川崎市立稲田小学校　太田　満

(5) 京都らしさと在日朝鮮人
－地域の歴史に学ぶ異文化理解学習－
千葉商科大学　高野　昭雄

自由研究Ⅰ－第6分科会　N206

司会者　国立教育政策研究所　工藤　文三
北海道教育大学釧路校　藤本　将人

(1) ドイツ後期中等公民的教科目の学力像
－ＥＰＡ（ゾチアルクンデ/政治）を手がかりとして－
山梨大学　服部　一秀

(2) 歴史教育におけるセンター試験とＡＰ試験研究の視点
岐阜県立吉城高校　中切　正人

(3) 昭和戦前期の歴史教育における「教育評価」と「学力測定」の射程
－国史学習の心理と成績考査の論理－
愛媛大学　福田　喜彦

(4) 社会科における学力形成と学習方略使用
東京都立六郷工科高等学校　須郷　一史
東京都立稔ヶ丘高等学校　吉田　英文

(5) パフォーマンス評価を生かした小学校社会科授業づくり
東北大学大学院・仙台市立高森東小学校　菅原　友子
東北大学大学院・東北福祉大学　三浦　和美
東北大学大学院教育情報学研究部　中島　平

自由研究Ⅰ－第7分科会　N301

司会者　広島大学　永田　忠道
帝京大学　向山　行雄

(1) 米国における「国際教育」改革の課題と展望
－改革主体と方略に着目して－
筑波大学大学院　内山　知一

(2) 社会科における学校図書館活用について
－学校図書館活用データベースの活用を通して－
東京学芸大学附属高等学校　加納　隆徳
東京学芸大学附属高等学校　岡田　和美

(3) 「海洋」の授業を構想する
新潟大学　宮薗　衛

(4) 教師・学生の「社会科は暗記物」という社会科観を変容させるための試行
－教材ウォッチングを通して－
玉川大学　伊東冨士雄

(5) 新聞と地図を活用した授業実践の内容と効果
－小学校社会科指導法を中心として－
北翔大学短期大学部　菊地　達夫

自由研究Ⅰ－第8分科会　N302

司会者　国士舘大学　北　俊夫
京都教育大学　水山　光春

(1) 社会参画としての「カンボジア」協同学習
－高校生のカンボジアスタディツアーを中心とした中学生・大学生との協同学習－
茨城県立取手松陽高等学校　大滝　修

(2) 環境教育における公害の扱いに関する一考
横手市立十文字第一小学校　小坂　靖尚

(3) 小学校社会科のエネルギー環境教育における社会的なものの見方・考え方の考察に基づく教材化モデルの開発
－第５学年の事例をもとに－
川崎市立虹ヶ丘小学校　中村　俊哉

(4) 「ケア」による環境教育への貢献
－シティズンシップの育成を見据えて－
筑波大学大学院　鎌田　公寿

(5) 原子力発電所事故後の「飲料水の確保」に関する授業の在り方について
－児童の授業前・授業後の意識調査を基にして－
東京学芸大学附属竹早小学校　上野　敬弘

自由研究Ⅰ－第9分科会　N303

司会者　埼玉大学　大友　秀明
弘前大学　小瑶　史朗

(1) 日本におけるESDの新たな方向性と地理教育における進捗状況
日本女子大学　田部　俊充
三重大学　永田　成文

(2) 社会科におけるＥＳＤの視点
－中学校社会科公民的分野「よりよい社会を目指して」における課題について－
奈良教育大学　中澤　静雄
福山市立大学　田渕五十生

(3) ＥＳＤの視点から考える新社会科カリキュラムの可能性
－中学校社会科公民的分野における教科書比較分析を通して－
中央大学大学院　津山　直樹

(4) ＥＳＤ地域副読本の協働的作成と地域教材開発力の育成
－愛知教育大学・香川大学院生による試み－
愛知教育大学　伊藤　貴啓

(5) Klafki「鍵的問題」構想によるESD教育
－ドイツ・ニーダーザクセン州を事例として－
筑波大学大学院　大髙　皇

自由研究Ⅰ－第10分科会　N304

司会者　北海道教育大学旭川校　金　玹辰
茨城大学　村山　朝子

(1)　文化地理に関する研究機関とその活用
東京都立浅草高等学校　多田　統一

(2)　フィンランドの地理教育の内容とその特徴
－初等・中等教育一貫性の観点から－
専修大学松戸高等学校　泉　貴久

(3) アメリカ地理教育の五大テーマとスタンダードにおける地理的基本概念の再評価
－地理教育国際憲章からルツェルン宣言への波及－
宮城教育大学　吉田　剛

(4) 地理教育におけるGISの活用
－中・高等学校における防災学習－
筑波大学大学院　國原幸一郎

(5) 中学校「日本の諸地域学習」の単元開発
－小単元「日本の諸地域」の全体構造－
群馬大学名誉教授　山口　幸男

自由研究Ⅰ－第11分科会 **N403**

司会者　早稲田大学　小林　宏己
高千穂大学　鈴木　隆弘

(1) 人権教育を推進する社会科
－人権教育における社会科の意義－
新宿区立戸山小学校　河野辺貴則

(2) ICTと体験活動を通した社会科授業
－第4学年くらしを守る－
坂出市立瀬居小学校　河野　富男

(3) 社会科における「景観まちづくり学習」の研究
秋田大学大学院　佐賀　寛生

(4) 高等学校における「水俣」の教材化
－総合学習と現地研修を活用して社会認識力を育てる－
神奈川学園中学高等学校　小川　輝光

(5) 話し合いを通して主体的に意見形成を行う社会科学習
－「震災復興まちづくり」のロールプレイ学習を題材として－
東京学芸大学附属世田谷中学校　石本　貞衡

※司会者のお名前は、五十音順に記載しています。
※大学院重点化による大学院大学の所属につきましては、大学院生との区別をはっきりさせるために便宜上大学名で記載させていただきました。

昼食　12:00－13:00

評議員会　12:00－13:00 **Ｎ４１０**

※評議員、幹事のみなさまはご参集ください。

シンポジウム　13:00―16:20　　**Ｓ４１０**

リスク社会における社会科のあり方（存在意義）を考える

《趣旨説明》

既存の科学的知見では「予想さえしなかった」，あるいは「想定外」といわれる危機（薬害問題，鳥インフルエンザ，口蹄疫，BSE，ダイオキシン，自然災害，東日本大震災，原発事故と放射能汚染など）に翻弄される時代に私たちは生きている。いずれの危機も，自然と社会の巨大な複合的現象として立ち現れ，しかも今日のグローバル社会では，危機も狭い地域にとどまることなく，地球規模で拡散していくものとなっている。

こうした新しい事態を「非知」（ベック）と呼び，現代はそれが拡大した「リスク社会」と呼ぶことができる。「リスク社会」を考えるためには，多様なコミュニケーションに根ざした熟議と新たな公共圏の構築が不可欠であり，安易な合意形成の再考を迫る。「個人化」「孤立化」傾向にある現代の子どもたちに対しては，従来の社会科教育や学習指導要領の枠組みを超えた学力や資質が求められるのである。しかも「リスク社会」には，向き合う側の情報に対する批判的なスキルの育成，自己の意見を発信していく能力も今以上に求められることになる。

今回，私たちは，「リスク社会」と向き合うための理論と実践を検討するために，４人の異なる立場から，福島で起きている問題を中心に，具体的な問題提起をいただく計画である。また指定討論者には「リスク社会」論の基盤となる理論社会学と現代青年論の立場からコメントしていただく予定である。

司　会　　広島大学　　木村　博一
東京学芸大学　　坂井　俊樹

報告者

（1）環境教育から今日の実践課題を探る
東京学芸大学　　三石　初雄

（2）リスク社会の中の現代若者像
― つながりとかかわりを求めて ―
愛知教育大学　　中妻　雅彦

（3）放射能に向き合う農業者の挑戦
福島県有機農業ネットワーク　　菅野　正寿

（4）教育実践からリスク社会に迫る
―「正当にこわがる」資質をどう育むか ―
福島県立田村高等学校　　小田　賢二

指定討論者　　東京学芸大学　　浅野　智彦

総会　　16:30―17:15　　**Ｓ４１０**

懇親会　17:30―19:30　　**生協・大食堂**

第2日目　２０１２（平成２４）年9月30日（日）

自由研究発表　Ⅱ　9:00－12:00

自由研究Ⅱ－第１分科会　N201

司会者　筑波大学　伊藤　純郎
埼玉大学　桐谷　正信

(1) 初期社会科と教材映画
－「社会科教材映画体系」を中心に－
筑波大学　國分　麻里

(2) 戦後の学習指導要領における文化遺産の位置と授業実践
新潟県立新潟向陽高等学校　竹田　和夫

(3) 1970～1980 年代のイギリスにおける地理教育研究課題についての予察
－ロンドン大学教育研究大学院の地理教育修士論文から－
上越教育大学　志村　喬

(4) 1950 年代前半の郷土教育研究大会が社会科教員研修に果たした役割
－「青いリンゴの運動」に着目して－
兵庫教育大学大学院　白井　克尚

(5) 東京第二師範学校男子部附属小学校における社会科単元指導計画の修正
－1947 年度文部省教科書局実験学校による社会科実施過程の一端－
筑波大学大学院　篠﨑　正典

自由研究Ⅱ－第2分科会　N202

司会者　筑波大学附属高等学校　篠塚　明彦
鳥取大学　高橋　健司

(1) 文化史と他分野との関連付けを意識した中学校歴史学習の授業構想
－明治の「近代文化の育成」を事例として－
かすみがうら市立千代田中学校　岡野　英輝

(2) 江戸名所図会を読み解く江戸まちづくり
－習得と活用を図る授業－
中央区立泰明小学校　香川　稔
帝京大学　向山　行雄

(3) モノとの関係性から考える歴史学習
－犬の社会的表象の変化から時代の特徴を捉える－
四日市市立泊山小学校　萩原　浩司

(4) 「地域の風景」を題材にした世界遺産教育の実践研究
奈良女子大学附属中等教育学校　北尾　悟

(5) 古代文明をどう教えるか
－「インカ帝国」を例として－
佐賀県立佐賀東高等学校　堤　敏浩

自由研究Ⅱ－第3分科会　N203

司会者　新潟市立石山中学校　小林　朗
東洋大学　須賀　忠芳

(1) 古代・中世社会を認識するための宗教的事象の考察
三重県菰野町立竹永小学校　井川　和道

(2) 戦争体験「語り」の継承プログラムに関する研究
－広島と長崎の取り組みを事例として－
秋田大学　外池　智

(3) 児童生徒の歴史意識と歴史的思考力に関する調査
－中高生における歴史意識と歴史的思考力の実態－
埼玉県立熊谷商業高校　韮塚　雄一
埼玉県立川越女子高校　永松　靖典

(4) 歴史教育における学力段階を考える
－ドイツ・ベルリンの事例を中心に－
麻布中・高等学校　鳥越　泰彦

(5) 論述問題をいかに採点するか
－「考える日本史授業」の評価論－
東京学芸大学　加藤　公明

自由研究Ⅱ－第4分科会　N204

司会者　東京福祉大学　小野　智一
東京都立大森高等学校　佐藤　亨

(1) 政治学習における「社会参画」を育む授業の一考察
－選挙管理委員会と共同開発した模擬選挙を通して－
千葉市立若松小学校　石川祐基治

(2) 社会科における社会的ジレンマの教材化
－環境問題を事例として－
筑波大学　唐木　清志

(3) 高等学校における社会参加学習の実践
－東日本大震災をテーマとして－
東京大学大学院　古田　雄一
埼玉県立岩槻高等学校　細野　隆彦

(4) 労働における若者の現状と労働法教育の課題
－高校生の現実を踏まえた新しい労働法教育実践に向けて－
高千穂大学　鈴木　隆弘

(5) よりよい社会の形成に参画する生徒の育成Ⅳ
江東区立辰巳中学校　仲村　秀樹
町田市立町田第三中学校　島田　一郎
東京学芸大学附属世田谷中学校　石本　貞衡

自由研究Ⅱ－第5分科会　N205

司会者　北海道教育大学札幌校　田山　修三
東京家政大学　二川　正浩

(1) 東日本大震災の教材化
－子どもに養われる社会的な見方や考え方に着目して－
東京学芸大学附属小金井小学校　小倉　勝登

(2) 子どもに養われる社会的な見方や考え方の研究
－小学校第１学年の実践を通して－
大田区教育委員会　矢部　洋一　東京都小平市教育委員会　志村　安
府中市立府中第一小学校　島田　学　文京区立本郷小学校　住谷　嘉子

(3) 子どもに養われる社会的な見方や考え方の研究
－小学校第３学年の実践を通して－
八王子市教育委員会　草刈あずさ
さいたま市立高砂小学校　千明　勉

(4) 子どもに養われる社会的な見方や考え方の研究
－小学校第６学年の実践を通して－
久留米市教育委員会　間嶋　健
さいたま市立中尾小学校　伊藤さおり

(5) 社会科教育の意義・価値についての小学生の意識に関する研究
安中市立碓東小学校　佐藤　浩樹

自由研究Ⅱ－第6分科会　N206

司会者　愛媛大学　鴛原　進
東京学芸大学附属世田谷小学校　岸野　存宏

(1) エネルギー環境教育における社会的態度形成のあり方に関する研究
－小学校高学年社会科の実践－
板橋区立中台小学校　石原　淳　女子栄養大学　井元　りえ
INSS 社会システム研究所　大磯　眞一　星槎大学　佐島　群巳
練馬区立向山小学校　鈴木　真　香川大学　妹尾　理子
京都教育大学　高山　博之　国立学園小学校　東原　秀郎
川崎市立虹ヶ丘小学校　中村　俊哉　さいたま市立指扇小学校　野口　芳江
INSS 社会システム研究所　橋場　隆　京都教育大学　山下　宏文

(2) 小学校社会科における食農教育の実践的研究
－「のらぼう菜」を例に－
川崎市立虹ヶ丘小学校　中村　俊哉
浜松大学　田中　浩之
星槎大学　佐島　群巳

(3) 言語活動を充実させ、価値判断力を育成する社会科学習のあり方
－「地域の直売所を生かした食料生産の学習(5年)」の教材化を通して－
鴨川市立鴨川小学校　粕谷　昌良

(4) 新しい農業学習に関するカリキュラム開発
－農家と店が連携した八街のピーナッツ栽培－
板橋区立板橋第十小学校　石橋　昌雄　板橋区立板橋第十小学校　横山　千恵
板橋区立板橋第十小学校　奥村　菜月　板橋区立板橋第十小学校　市川　賢治
武蔵野市立本宿小学校　池田　渚　荒川区立第二狭田小学校　菅原周一郎
武蔵野市立第一小学校　佐藤　翼　調布市立上野原小学校　松田　絢也
立川市立第九小学校　村木　道子　板橋区立板橋第十小学校　上野　由貴

(5) 日常的な調査活動を通して野菜の産地の変化を追究した研究
－児童自らが行った１年間の給食の産地調べを通して－
板橋区立板橋第十小学校　石橋　昌雄
板橋区立板橋第十小学校　奥村　菜月

(6) 小学校社会科における子どもの実感的な学び
－中学年の実践事例を元に　その２－
東京学芸大学附属小金井小学校　根本　徹

自由研究Ⅱ－第7分科会　N301

司会者　広島大学　小原　友行
武蔵野大学　佐藤　公

(1) 追究型授業の教材と発問の役割
－有田和正の小学校社会科授業分析を通して－
同志社大学大学院　齊木　千尋

(2) 調べる活動を位置づけた社会科学習の構成支援
－学校図書館活用と公共図書館による支援－
帝京大学　鎌田　和宏
国立国際子ども図書館　橋詰　秋子

(3) 情報活用能力を育成する小学校社会科学習の実践的研究
－第４学年の実践を中心に－
名古屋市立野田小学校　松本　卓也

(4) 価値判断力育成をめざした中学校社会科授業づくり
－単元「再生可能エネルギーについて考える」の場合－
つくば市立竹園東中学校　大山　喜裕

(5) 問いの創出を支える学習活動に関する研究
横浜市立北方小学校　近藤　真

自由研究Ⅱ－第8分科会　N302

司会者　筑波大学附属中学校　館　潤二
桐蔭横浜大学　谷田部玲生

(1) 公民科「政治・経済」における食と農業の授業構想
秋田県立秋田高等学校　大山　香子

(2) OECD 金融教育プロジェクトと PISA2012 金融リテラシー調査
東洋大学　栗原　久

(3) 長洲一二「経済教育論」の再検討
－日本資本主義論争を手がかりに－
北海道豊富高等学校　山崎　辰也

(4) 大学入試問題と高校経済教育
－第一回～第三回入試問題検討プロジェクトのまとめ－
北海道豊富高等学校　山崎　辰也　東京都立小石川中等教育学校　新井　明
千葉県立千葉西高等学校　杉田　孝之　東京都立桜修館中等学校　高橋　勝也
大阪府立旭高等学校　松井　克行

(5) 身近な地域の経済活動と環境教育(16)
－社会貢献たる環境改善活動履歴のカリキュラム化－
市川市立第一中学校　竹澤　伸一

自由研究Ⅱ－第9分科会　N303

司会者　川崎医療福祉短期大学　中原　朋生
福井大学　橋本　康弘

(1) 法教育の基本的価値
－価値判断基準について－
東京学芸大学大学院　中平　一義

(2) テキサス州の社会科における法的リテラシーの育成の方法論
静岡大学　磯山　恭子

(3) 法教育における PISA の視座
－法教育の特質と固有性の再確認－
藤沢市立藤が丘中学校　吉田　浩幸

(4) 「ルール」を題材とした法教育授業実践
－私的自治のルールを通して、よいルールの条件を学ぶ授業－
相模原市立上溝中学校　野嵜　雄太
横浜弁護士会　村松　謙

(5) 民主主義と立憲主義
－憲法教育の再検討－
川崎市立野川中学校　大坂　誠

自由研究Ⅱ－第10分科会　N304

司会者　千葉大学　竹内　裕一
宮城教育大学　吉田　剛

(1) 原発問題中心の社会科カリキュラムの開発と実践
－高校公民科「現代社会」の場合－
大阪府立旭高等学校　松井　克行

(2) ３．１１後に「持続可能な社会」が改めて問い直す
－三陸・沖縄を事例として－
東京学芸大学附属国際中等教育学校　古家　正暢

(3) エネルギー・デモクラシーの教育(Ⅱ)
－市民力モデルと授業プランの開発－
京都教育大学　水山　光春
京都学園大学　田中　曜次
京都教育大学附属京都小・中学校　橋本　祥夫

(4) 社会的合意形成能力を育成する地域問題学習
－「放射能汚染と地域」授業実践分析を通して－
千葉県立柏中央高等学校　山本　晴久

(5) 命を守るエネルギー資源教育(2)
－文部科学省の原子力・放射線等に関する副読本の批判的検討－
秋田大学　井門　正美

自由研究Ⅱ－第11分科会　N403

司会者　東京学芸大学　波　巌
鳴門教育大学　西村　公孝

(1) 新教育研究協議会における社会科の性格・理論とその実践
－第一回と第三回のズレの分析－
宮崎大学名誉教授　谷本　美彦

(2) 博物館見学を通じた社会科系教職課程履修者の教材開発能力の育成
清和大学　小松　伸之

(3) 社会科教員養成における授業開発力育成の試み
－大学院生によるＥＳＤ用地域副読本開発を通して－
香川大学　伊藤　裕康

(4) 社会科教師の専門性の捉え方に関する一考察
－社会科教師の専門性に関する言説と教師自身による語りの対比から－
筑波大学大学院　村井　大介

(5) ハンセン病訴訟判決文を活用した社会科人権教育
－教員養成大学における授業実践を中心に－
愛知教育大学　真島　聖子

昼食　12:00－13:00

課題研究発表　　13:00－15:30

課題研究Ⅰ　社会科授業の研究と経験を科学する　　N３０３

［趣旨］本学会では，授業研究方法において，質的研究方法の面からの議論が十分に展開されてこなかったようである。子どもたちや教師たちの，いわば深層まで探る質的研究方法は，社会科教育でどこまで可能なのか，いままでの授業研究史を踏まえて議論したい。

コーディネータ　香川大学　松本　康
東京都大田区教育委員会　増田　亮

報告者

(1) 定性的な授業分析の意義・課題・可能性
　－社会科教育研究において－　西南学院大学　田代　裕一
(2) 質的分析からみた社会科授業研究の課題　山形大学　江間　史明
(3) 学校現場における質的研究を通した授業力向上の取り組み　大田区立久原小学校　木下健太郎

課題研究Ⅱ　格差と貧困の現実に，社会科はどう向き合うか　　N３０４

［趣旨］格差・貧困の蔓延が放置される社会は，「暴力的社会」といえる。市民性育成を標榜する社会科は，子どもたちを取り巻く現実にいかに立ち向かうのか，「格差・貧困」の視点から社会科実践のあり方を議論したい。

コーディネータ　横浜国立大学　重松　克也
愛知県立大学　久保田　貢

報告者

(1) 格差社会で生きる生徒にどんな力をつけるべきか
　－『教育困難校』の生徒たちは発言する－　千葉県立幕張総合高等学校　浅尾　弘子
(2) 格差社会に生きる生徒に向けての『動く社会科カリキュラム』構築案
　－生徒の変容をどのように捉えて対応するのか－　神奈川県立平塚農業高等学校初声分校　金子　幹夫
(3) 格差社会における青少年の意識と社会科授業
　－競争原理を分析視点に－　横浜国立大学　重松　克也

課題研究Ⅲ　社会科学習指導要領の課題を実践から問い直す　- 言語活動の工夫と評価　　N４０３

［趣旨］新教育課程では，言語活動が重視されているが，小・中・高校を見通した社会科教育における言語活動のあり方と発展，またそうした言語活動の評価をどのような観点から進めるか，具体的事例を基にして議論したい。

コーディネータ　国士舘大学　北　俊夫
山口大学　吉川　幸男
指定討論者　広島大学　小原　友行

報告者

(1) 言語活動の充実は授業の充実から　北海道教育大学札幌校　田山　修三
(2) 習得資質能力を構成原理とした小・中学校社会科カリキュラムの開発
　―言語活動の充実に求められる資質能力に着目した場合―　高松市立紫雲中学校　日詰　裕雄

(3) 社会科における思考力・判断力育成のための言語活動　埼玉大学　桐谷　正信

(4) 言語活動充実の意義と背景

－教育行政の立場から－　国立教育政策研究所　澤井　陽介

課題研究Ⅳ 社会科教師としての成長を考える　N４１０

［趣旨］社会科教師たちは，世代や地域，職場環境の違いの中で，どのような課題や壁に直面するのであろうか。社会科教師としてのライフヒストリーを読み解くためには，社会や学校への向き合い方など教科の特性との関連だけでなく，私的な領域をも視野に入れることが重要となろう。多様な事例から，教師の成長という問題を考えたい。

コーディネータ　総合初等教育研究所　梶井　貢

東京学芸大学附属小金井中学校　平田　博嗣

報告者

(1) 社会科との出会い　世田谷区立塚戸小学校　中楯　浩太

(2) 中学社会科教師として　練馬区立開進第一中学校　池下　誠

(3) 社会科と学校　葛飾区立西亀有小学校　駒野眞理子

課題研究Ⅴ 社会科を軸に防災の授業をどうつくるか - 釜石の奇跡に学ぶ -　N４１１

［趣旨］小学校に「自然災害の防止」が中学校に国土の災害や安全、ＥＳＤが導入され、防災の授業づくりが求められている。教材開発や学校防災計画などとの関係を視野にその教材や方法論について考えたい。

コーディネータ　玉川大学　寺本　潔

筑波大学付属駒場中・高等学校　篠塚　明彦

早稲田大学　池　俊介

報告者

(1)「釜石の奇跡」から学ぶ－第５学年単元「自然災害の防止」の学習－

東京学芸大附属小金井小学校　小倉　勝登

(2)「防災意識を高める」社会科授業－単元『自然災害を防ぐ』の実践から－

世田谷区立塚戸小学校　染谷　恭平

(3)「社会参画意識を高める授業実践－身近な地域の防災学習から－」

葛飾区立立石中学校　茂田井一人

(4)「学校・家庭・地域が連携する防災教育」への取組

－地域と連携した体験的な活動と一体化した横浜の防災教育－

横浜市教育委員会　山本　朝彦

大会参加要項

1　参加費等

（1）　大会参加費

一般会員：3000 円（事前登録），3500 円（当日登録）

学生・院生会員：2500 円（事前登録），3000 円（当日登録）

非会員：3500 円（事前登録・当日登録とも）

（2）　懇親会

会員・非会員によらず事前申込 4000 円，当日申込 5000 円

（3）　弁当代（お茶付）

一日目，二日目とも 800 円。

【振込先】銀行名：三菱東京 UFJ 銀行　　支店名：江戸川橋支店（060）

口座番号：（普）0062528

口座名：日本社会科教育学会第 62 回全国研究大会

（ニホンシヤカイカキヨウイクガツカイダイロクジユウニカイ

ゼンコクケンキユウタイカイ）

2　大会参加登録について（締切 8/30）

・大会への参加は，学会ホームページの第６２回全国研究大会（東京大会）をご確認の上，お申し込みください。ホームページをご覧になれない方は，ファックス（勁草書房 03-3814-6904）でお送りいただいても結構です。

・本大会の受け付け事務は，（株）勁草書房コミュニケーション事業部に委託しています。

・振込期限は大会参加登録と同じ 8/30 です。

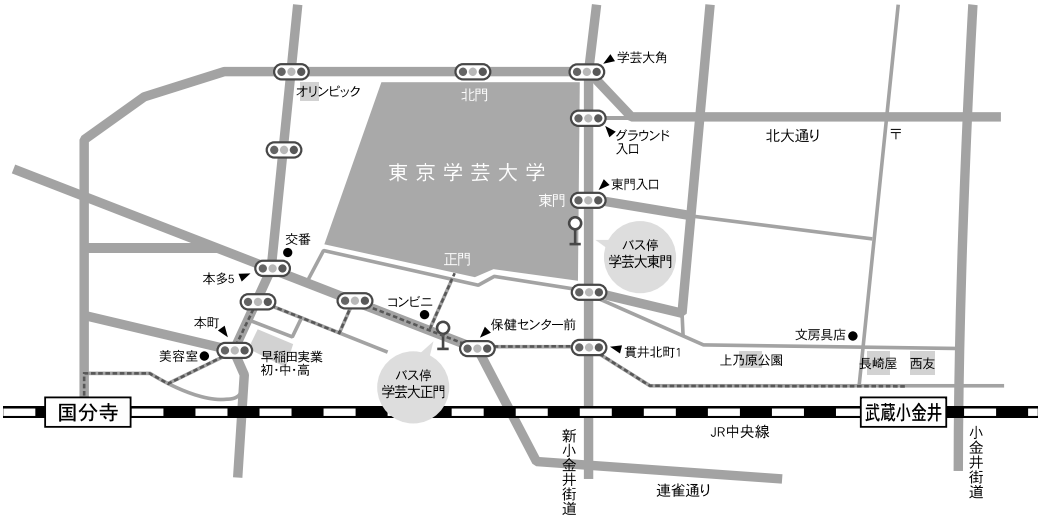
（注）振込が確認できた時点で事前参加登録完了とします。ホームページから登録を済ませただけでは，事前登録となりませんのでご注意ください。なお，事前登録された方には当日の『大会論文集』を確保します。当時の混雑緩和のため，できる限り事前登録していただくようお願いいたします。

なお、9 月 23 日（日）までの事前申込のキャンセルは、振込手数料を除いて返金しますので、（株）勁草書房コミュニケーション事業部にご連絡ください。

3　会期中の昼食（弁当）

教育実習期間中のため２９日（土）３０日（日）ともに大学生協は一般営業をしておりません。お弁当は両日ともお茶付で 800 円です。また正門付近と東門付近には，コンビニがあります。東門付近にはいくつか飲食店もあります。（３０日は日曜日のため東門と北門は施錠されますので，「グラウンド入口」をご利用ください。）**※お弁当を申し込まれる方は，上記１の参加費に加えお弁当代を日数分お振込みください。**

4　会場へのアクセス



JR 武蔵小金井駅北口からの場合

【京王バス】〔５番バス停〕「小平団地行」に乗車約 10 分，「学芸大正門」下車。

〔６番バス停〕「中大循環」に乗車約 10 分，「学芸大東門」下車。

【徒歩】約 20 分

JR 国分寺駅北口からの場合

【徒歩】約 20 分

【タクシー】JR 武蔵小金井駅北口・国分寺駅北口から，ともに基本料金。なお大学構内には駐車場はありませんので，自動車での来校はご遠慮ください。

5　お問い合わせ

〈事前参加登録〉・〈参加費・弁当・懇親会費の振込〉

（株）勁草書房コミュニケーション事業部

『日本社会科教育学会第 62 回全国研究大会（東京大会）』担当デスク

メールアドレス sanka-62ndjass@keiso-comm.com

Fax：03-3814-6904

〈その他の事項について〉

日本社会科教育学会第 62 回全国研究大会（東京大会）事務局

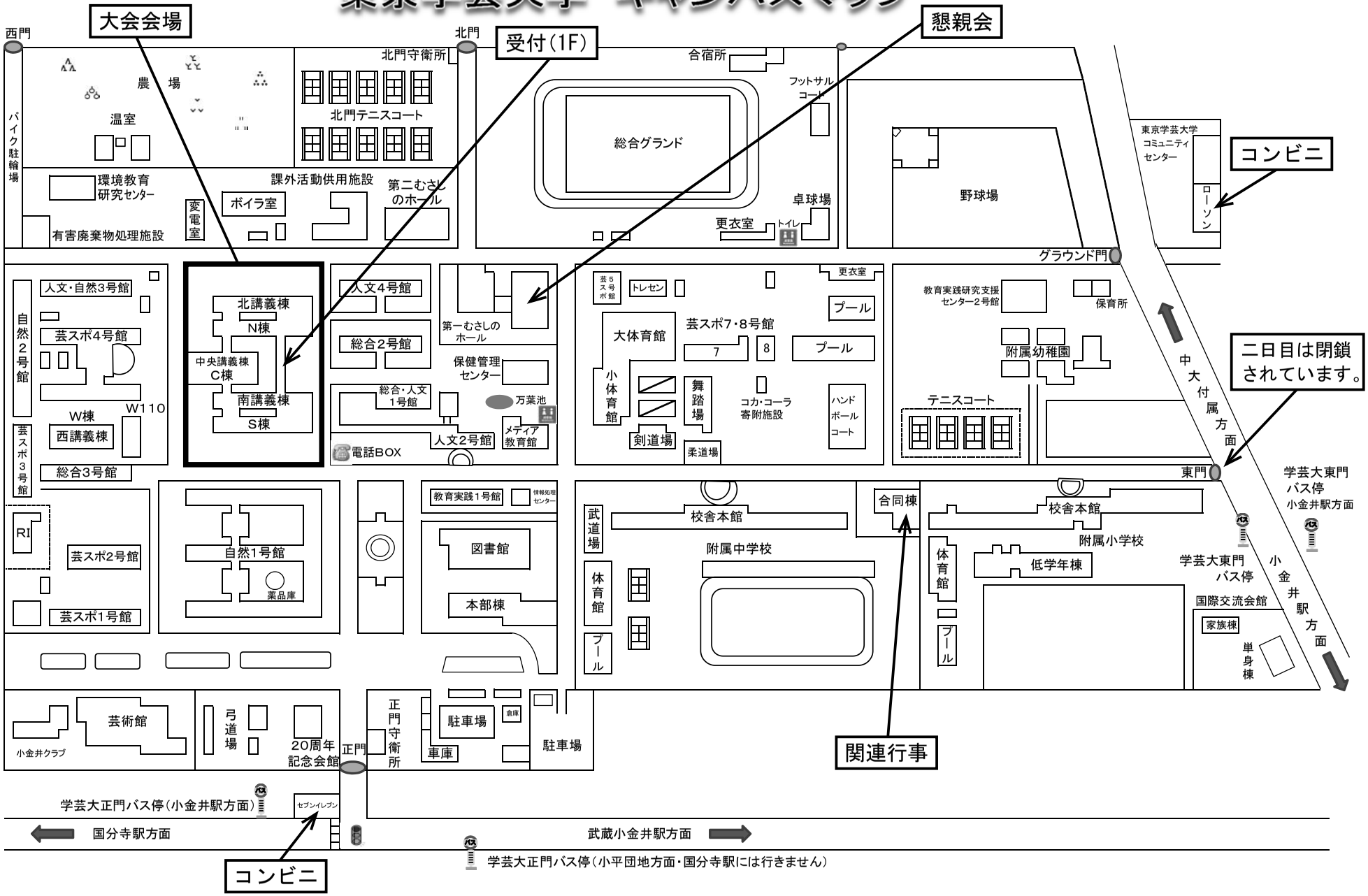
〒184-0015　東京都小金井市貫井北町 4-1-1

東京学芸大学人文社会科学系　社会科教育学研究室

e-mail　jass62nd@u-gakugei.ac.jp　（問い合わせはメールでお願いします）

なお大会に関する最新情報は，学会ホームページ（http://socialstudies.jp）にて随時お知らせします。

東京学芸大学　キャンパスマップ



会場案内

講義棟（Ｓ棟）

［３階］

- Ｓ３０３
- Ｓ３０７
- 階段
- Ｓ３０６
- Ｓ３０２
- Ｓ３０５
- Ｓ３０１
- Ｓ３０４
- 階段
- トイレ
- エレベータ

［４階］

- Ｓ４０３
- Ｓ４０７
- 階段
- Ｓ４０６
- Ｓ４０２
- Ｓ４０５
- Ｓ４０１
- Ｓ４０４
- 階段
- トイレ
- エレベータ
- Ｓ４１０　シンポジウム　総会

講義棟（Ｎ棟）

［３階］

- Ｎ３０７
- エレベータ
- Ｎ３０３　自由研究Ⅰ-⑨　自由研究Ⅱ-⑨　課題研究　Ⅰ
- 階段
- Ｎ３０６
- Ｎ３０２　自由研究Ⅰ-⑧　自由研究Ⅱ-⑧
- Ｎ３０５
- Ｎ３０１　自由研究Ⅰ-⑦　自由研究Ⅱ-⑦
- Ｎ３０４　自由研究Ⅰ-⑩　自由研究Ⅱ-⑩　課題研究　Ⅱ
- 階段
- トイレ

［４階］

- Ｎ４０７
- エレベータ
- Ｎ４０３　自由研究Ⅰ-⑪　自由研究Ⅱ-⑪　課題研究　Ⅲ
- 階段
- Ｎ４０６
- Ｎ４０２
- Ｎ４０５
- Ｎ４０１　参加者控室
- Ｎ４０４
- 階段
- トイレ
- Ｎ４１０　評議員会　課題研究Ⅳ
- Ｎ４１１　課題研究Ⅴ

講義棟（Ｓ棟）

［１階］

- Ｓ１０３
- Ｓ１０７
- 階段
- Ｓ１０６
- Ｓ１０２
- Ｓ１０５
- Ｓ１０１
- Ｓ１０４
- 階段
- トイレ
- エレベータ

［２階］

- Ｓ２０３
- Ｓ２０７
- 階段
- Ｓ２０６
- Ｓ２０２
- Ｓ２０５
- Ｓ２０１
- Ｓ２０４
- 階段
- トイレ
- エレベータ

講義棟（Ｎ棟）

［１階］

- Ｎ１０７
- エレベータ
- Ｎ１０３　参加者控室
- 階段
- Ｎ１０６
- Ｎ１０２　参加者控室
- Ｎ１０５
- Ｎ１０１　大会事務局
- Ｎ１０４
- 階段
- トイレ

［２階］

- Ｎ２０７
- エレベータ
- Ｎ２０３　自由研究Ⅰ-③　自由研究Ⅱ-③
- 階段
- Ｎ２０６　自由研究Ⅰ-⑥　自由研究Ⅱ-⑥
- Ｎ２０２　自由研究Ⅰ-②　自由研究Ⅱ-②
- Ｎ２０５　自由研究Ⅰ-⑤　自由研究Ⅱ-⑤
- Ｎ２０１　自由研究Ⅰ-①　自由研究Ⅱ-①
- Ｎ２０４　自由研究Ⅰ-④　自由研究Ⅱ-④
- 階段
- トイレ